2026年11月6日

各　位

会 社 名　ＳＧホールディングス株式会社
代表者名　代表取締役社長　　松本　　秀一
（コード番号：9143　東証プライム）
問合せ先　取締役　財務・経営企画担当　髙垣　考志
（TEL 075-693-8850）

2027年３月期第２四半期（中間期）連結業績予想と実績との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年５月８日に公表いたしました2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績予想について、予想値と実績値との差異が生じましたので、お知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、2027年３月期通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．　2027年３月期第２四半期(中間期)連結業績予想と実績との差異

（１）差異の内容

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	846,000	36,000	34,000	20,000	33.24
実績値　（B）	920,437	41,440	39,791	27,929	46.80
増減額（B－A）	74,437	5,440	5,791	7,929	
増減率（　％　）	8.8	15.1	17.0	39.6	
（ご参考）前期実績（2026年３月期第２四半期）	782,582	38,540	38,114	23,305	38.54

（２）差異の理由

親会社株主に帰属する中間純利益について、ロジスティクス事業やグローバル物流事業が堅調に推移したことによる営業利益の増加に加え、投資有価証券売却益45億円を特別利益として計上したことなどにより、前回発表予想を上回る結果となりました。

２．2027年３月期通期連結業績予想数値の修正

（１） 修正の内容

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	1,740,000	97,000	95,000	60,000	99.72
今回修正予想（B）	1,820,000	100,000	98,000	65,000	108.93
増減額（B－A）	80,000	3,000	3,000	5,000	
増減率（ ％ ）	4.6	3.1	3.2	8.3	
（ご参考）前期実績（2026 年３月期）	1,644,762	90,247	91,782	59,066	98.17

（２） 修正の理由

当中間連結会計期間の業績動向及び今後の見通し等を踏まえ、営業収益につきましては、デリバリー事業及びグローバル物流事業、その他の事業を上方修正し、全体で800億円の上方修正を行いました。営業利益につきましては、デリバリー事業を下方修正、ロジスティクス事業、グローバル物流事業、不動産事業を上方修正し、全体では30億円の上方修正を行いました。また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上述の営業利益の修正に加えて、投資有価証券売却に係る特別利益の計上もあり、50億円の上方修正をいたしました。

各セグメントの修正理由につきましては以下のとおりです。

（デリバリー事業）

取扱個数につきましては、BtoB・BtoC ともに計画を上回って進捗し、営業収益の確保に貢献いたしました。一方、平均単価については、適正運賃収受の方針に則った価格交渉は堅持しているものの、越境EC等小型荷物の取扱構成が高まったことで計画を下回って推移しています。また、費用面に関しましては、原油価格上昇に伴う燃料費の増加や、パートナー企業に対する燃料サーチャージ負担の増加に加え、年末繁忙期の安定的な輸送体制の構築に向け、輸送能力を先行して確保した結果、外注費を中心に当初想定を上回る見込みとなりました。下期からは単価改善と輸送ネットワークの効率化を徹底し、収益性改善を加速してまいります。

こうした点を踏まえ、通期の取扱個数予想を13.9億個から14.2億個へ、平均単価予想を663円から660円へ見直すとともに、外注費等の費用見通しを引き上げました。この結果、営業収益を上方修正する一方、営業利益を下方修正いたしました。

（ロジスティクス事業）

低温物流において、取扱物量の増加や適正料金収受の進展により、業績は計画を上回って推移いたしました。また、国内3PLについても、新規案件の獲得等により堅調に推移いたしました。

こうした状況を踏まえ、営業利益を上方修正いたしました。

（グローバル物流事業）

燃料価格上昇を背景とした航空運賃の上昇によって、イールドが改善したほか、世界的な半導体需要の拡大を踏まえ営業活動を強化したことで、モリソンの取扱物量が増加いたしました。加えて、エクスポランカにおけるコスト構造改革や、エクスポランカとモリソンのシナジー創出の推進など、収益力向上に向けた取組みが着実に進展いたしました。これらにより、営業収益、営業利益ともに計画を上回って推移しております。

こうした状況を踏まえ、営業収益及び営業利益を上方修正いたしました。

（不動産事業）

不動産の修繕計画の見直し等により、当初計画から費用が減少したことを受け、営業利益を上方修正いたしました。

（その他の事業）

大型トラックを中心に新車販売が計画を上回って推移していることから、営業収益を上方修正いたしました。なお、営業利益については前回予想を据え置いております。

なお、当中間連結会計期間の業績及び当該連結業績予想の修正等を総合的に勘案し、期末配当予想を修正しております。詳細につきましては、本日公表の「剰余金の配当（中間配当）の決定及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

【ご参考】2027年３月期　セグメント別通期連結業績予想

	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
営業収益　合計	1,740,000	1,820,000	80,000	4.6
デリバリー事業	1,090,000	1,105,000	15,000	1.4
ロジスティクス事業	210,000	210,000	－	－
グローバル物流事業	380,000	440,000	60,000	15.8
不動産事業	13,000	13,000	－	－
その他	47,000	52,000	5,000	10.6
営業利益　合計	97,000	100,000	3,000	3.1
デリバリー事業	76,000	73,000	△3,000	△3.9
ロジスティクス事業	7,500	8,500	1,000	13.3
グローバル物流事業	4,000	8,500	4,500	112.5
不動産事業	6,500	7,000	500	7.7
その他	2,000	2,000	－	－
調整額	1,000	1,000	－	－

※　本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて算定したものであり、実際の業績はこれらの数値と異なる結果となる可能性があります。

以　上